

応用練習問題 8

<解答>

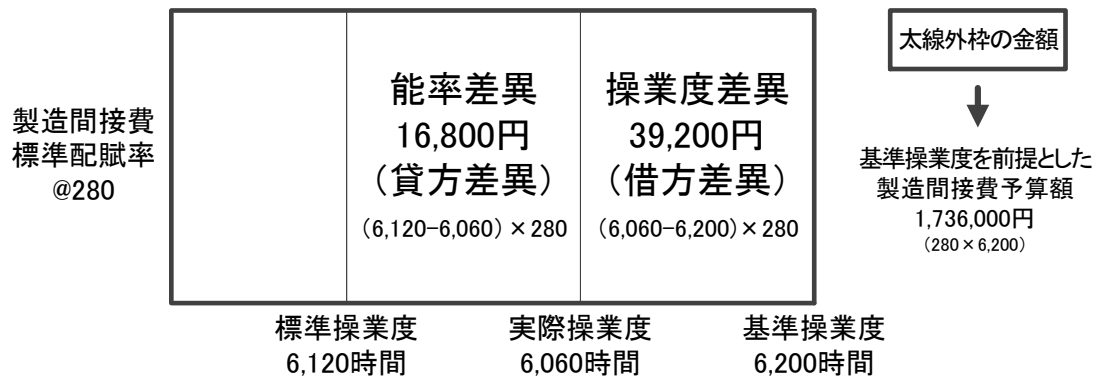
予算差異 21,200円 (貸方差異)
 能率差異 16,800円 (貸方差異)
 操業度差異 39,200円 (借方差異)

【解説】

与えられた資料では製造間接費の予定配賦率について変動費部分と固定費部分の内訳が明示されてなく、他の資料からも変動費部分と固定費部分の標準配賦率を把握することが不可能なので、公式法変動予算ではなく、固定予算を採用していると判断して解答する必要があります。固定予算であれば、変動費と固定費の内訳が不明でも解答可能である。

なお、直接材料費と直接労務費に関してはこれらの差異について問われていないので無視してよい資料となる。

固定予算を前提とした製造間接費の差異分析なので下記の図を書いて解いていく。ここで、生産データより当月投入 1,530 個だから標準原価カードより標準操業度は $1,530 \times 4 = 6,120$ 時間となる。実際操業度と基準操業度は与えられている。また、基準操業度と標準原価カードの配賦率から、製造間接費の予算額は $6,200 \times 280 = 1,736,000$ 円とわかる。



$$\begin{aligned} \text{予算差異} &= \text{製造間接費予算額} \text{ (太線外枠の金額)} - \text{製造間接費実際発生額} \\ &= 1,736,000 - 1,714,800 \quad \star 21,200\text{円 (貸方差異)} \end{aligned}$$

※図を用いた解法の詳細はテキストの「補論」を参照のこと。

〔参考〕算式を用いて計算した場合

固定予算なので、それぞれの差異は次のように計算される。

$$\text{予算差異} = \text{予算額} - \text{実際発生額} = 1,736,000 - 1,714,800 = 21,200 \text{ 円 (貸方差異)}$$

$$\text{能率差異} = (\text{標準操業度} - \text{実際操業度}) \times \text{標準配賦率}$$

$$= (6,120 - 6,060) \times 280 = 16,800 \text{ 円 (貸方差異)}$$

$$\text{操業度差異} = \text{予算} - \text{標準配賦額} = 1,736,000 - 280 \times 6,060 = 39,200 \text{ 円 (借方差異)}$$

または

$$= (\text{基準操業度} - \text{実際操業度}) \times \text{標準配賦率} = 140 \times 280 = 39,200 \text{ 円}$$